

近年の飼料用トウモロコシの品種特性

研究のねらい

飼料用トウモロコシ（以下、トウモロコシ）は、乾物収量と栄養価が高く、最も多く作付けされている飼料作物です。

市販の品種は、特性や気候が生産性に大きく影響するため、当场では、約20品種を同一条件で栽培し、乾物収量、早晩性、病害発生程度を比較調査しています。

技術の特徴

1 栽培期間における気象概況

平成24～28年（以下、近年）と14～18年（以下、過去）で比較すると、近年の播種時期（5月）の気温は、過去より約2℃高く、少雨の傾向で、生育後半（8～9月）は、雨が多く日照が少ない傾向でした（図1）。

2 近年の各品種の平均乾物収量(kg/10a)

早生は約2,600kg、中生は約2,750kg、晩生は約3,000kgとなり、過去と比べると約600

kg増加しています（図2）。品種改良や気温上昇などの要因で増加したと推察されます。

3 病害の発生

紋枯病(写真1)は、夏季の高温により、また、根腐病(写真2)は、収穫前の降水量の増加により晩生品種を中心に増えています(表)。

4 以上のことから、トウモロコシの安定栽培には、早晩生の組み合わせによるリスク回避や病気に強い品種の利用など、栽培条件に適した品種の選択が大切です。

今後の取り組み

今後も、栽培面積の拡大に寄与するため、品種比較調査を継続して、本県の気候に適した品種を明らかにし、情報を提供します。

（執筆者：斎藤 拓真）

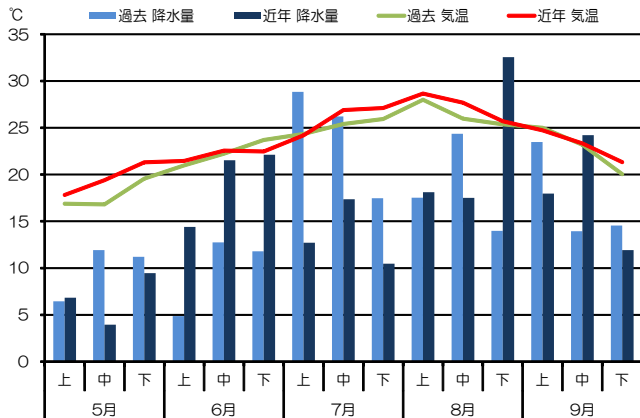


図1 栽培期間における気象概況（引用：前橋地方気象台）

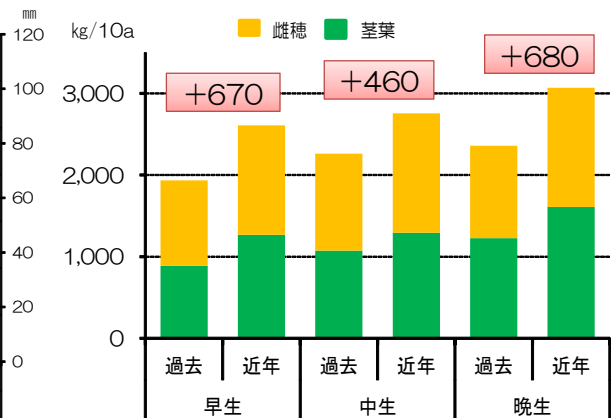


図2 近年と過去の乾物収量比較

表 近年と過去の病害発生程度比較

| | 紋枯病(1:無～9:甚) | | 根腐病(%) | |
|----|--------------|-----|--------|------|
| | 過去 | 近年 | 過去 | 近年 |
| 早生 | 1.0 | 2.2 | 0.0 | 0.9 |
| 中生 | 1.0 | 2.9 | 0.0 | 1.1 |
| 晩生 | 1.0 | 3.5 | 3.0 | 14.0 |
| 平均 | 1.0 | 2.9 | 1.0 | 5.3 |



写真1 紋枯病



写真2 根腐病

連絡先：畜産試験場場 飼料環境係（電話027-288-2222）